

令和4年度 学校評価

本年度の重点目標		<p><令和4年度のテーマ> 「笑顔と感動あふれる学校づくり」</p> <p>① 授業及び評価の改善を行い、児童生徒一人一人の学びを充実させる。 ② 家庭との連携をさらに深め、児童生徒一人一人を大切にした教育につなげる。 ③ つばきの5S（「整理」「整頓」「清潔」「清掃」「親切」）を推進し、新型コロナウイルス感染症対策をはじめとした安全・安心な学習環境、職場環境を整える。 ④ 学校外の人々とのつながりを大切にしたい、特色ある教育活動を推進する。 ⑤ 教職員の専門性を高めるとともに市教育委員会と緊密に連携し、特別支援教育のセンター的機能を発揮する。 ⑥ 学校における働き方改革に取り組み、教職員が心身ともに健康を維持できる職場づくりを進める。</p>		
		重点目標	具体的方策	留意事項
小学部		遊びの指導を中心とした授業改善	・重点的に取り組む単元を事前に選び、その単元では授業ごとの振り返りによる改善を行う。	・「遊びの指導におけるチェックポイント」を作成し、授業の振り返りを行う。学習効果の高かった活動を部として共有できるように、部会で各学年1回以上授業事例を発表する。
中学部		生活年齢に応じた言葉遣いや他者との関わり方等の生活習慣の定着	・場面に応じた言葉遣いや態度、中学生としての他者との関わり方や異性との距離感について協議する場を設ける。	・部会や学年会で学期に1回以上、有効だった手立てを紹介し、部全体でより効果的な手立てを検討する。 ・学年だよりや連絡帳などで、保護者に向けて重点目標の啓発を積極的に行う。 ・学校で有効だった手立てを保護者や関係諸機関と共有し、学校内外で協力して取り組む。
高等部		校内実習や産業現場等における実習の評価の活用と授業改善	・実習終了後、作業班ごとに所属する生徒の課題について共通理解を図る機会を設け、作業内容を見直す。	・共通理解を図る資料として実習評価表を活用する。 ・実習評価表を活用して目標や手立てを見直すとともに、目標達成のために作業内容が適切であるかを検討し、必要に応じて改善する。
項目	担当	重点目標	具体的方策	留意事項
① 授業及び評価の改善	教務	3観点を意識した授業計画と評価による学びの充実	・3観点を踏まえた授業の計画、実践、評価、改善を行う。 ・職員同士がお互いの授業を参観できる週間を設定し、学びを深める。	・部の実情に応じた学習班（職員グループ）で、授業を検討する機会を学期に1回以上作る。 ・参観できる機会を増やすため、昨年度より回数を1回増やし、9月と1月の2回、授業参観週間を設定する。
	研修	年間指導計画モデル案の改善、活用	・小学部から高等部までのモデル案の系統性をチェックする。 ・モデル案が活用しやすくなるように環境を整備する。	・校内研究の時間を使い、学期に1回は学期ごとの学習内容をチェックできるようにする。 ・校内研究では、小学部から高等部まで職員縦割りのグループ編成をする。 ・モデル案に沿って実施した授業の記録を残し、次年度の参考にできるようにする。また、授業計画や教材の電子データも合わせて保存し、モデル案とセットにすることで、授業イメージがもてるようにする。 ・職員の自宅にある使用済みの小学校の教科書等の回収を呼びかけ、集まったものを図書室で保管し、教材作りの参考資料として役立てる。
② 家庭との連携	進路指導	保護者が進路相談しやすい学校体制の整備	・広報誌や説明会、講話会などを通じて保護者、職員へ進路に関する情報を発信する。 ・相談窓口の設置をする。	・説明会の内容や進路の進め方など、進路指導部より関係する学年職員と確認をする。その後、説明会を実施する。 ・夏季休業中に、進路の窓口を設置する。また、事前に保護者にアンケートを実施し、相談の希望の有無や相談内容を把握する。 ・相談内容に応じ、担当の進路指導部職員を決める。
	生徒指導	いじめの早期発見、早期対応	・定期的に児童生徒の心のありようについて情報収集し、気がかりな点があればすぐに対応する。	・7月と12月に「つばき人権週間」を設定し、児童生徒を対象とした「生活アンケート」を実施する。合わせて、保護者宛文書を配付し、家庭での様子に気がかりな点がないか、情報収集する。 ・気がかりな点があればすぐに部で共通理解を図り、対応する。必要に応じていじめ・不登校対策委員会を開催し、対応方針を検討する。

③ つばきの 5 S の推 進	保体	5 S のさらなる充 実	<ul style="list-style-type: none"> 職員室、器具庫、教材室、準備室等の整理整頓をする。 校舎の構造に適した清掃道具等を準備し、清掃効率を上げる。 きれいな施設を保ち、児童生徒、職員共に気持ちよく過ごせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 物の置き場が分かるような表示を、年度始めに行う。また、安全点検に合わせ、月に1回以上整理整頓を行う。 学期末及び年度末に必ず清掃道具の確認を行い、清掃効率が下がらないようにする。 出入口の近くにほうきを置いたり雑巾を置いたりするなど、汚れた所をすぐにきれいにできるように清掃道具を配置する。 施設利用の注意点、掲示・廃棄方法、物品保管・利用方法などの再確認、連絡を行事ごとに行う。
	総務	校内の各種表示の 充実	<ul style="list-style-type: none"> 来校者の案内用に、学年学級の配置を記載した案内図を各階の廊下等に設置する。 職員、教室間の連絡をとりやすくするため、教室内に内線番号を記載した教室配置図を配備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者等の来校者から見て、わかりやすい案内図になるように、効果的な設置場所や表示方法等を検討する。 毎年の学級編成や教室配置の変更に対応して、配置図の差し替えを、簡単に行えるような方法を工夫する。
④ 学校外と のつなが り	進路 指導	自立と社会参加に 向けたつながりの 強化	<ul style="list-style-type: none"> 地域の関係諸機関に本校の教育を理解してもらうため、積極的に情報発信する。 職員のキャリア教育に関する知識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月に福祉事業所向け学校見学会を、11月に企業向け学校見学会を開催し、本校の理解推進を図る。 夏季休業中にキャリア教育に関する現職研修を行う。また、同じく夏季休業中に職員向けの企業や福祉事業所の見学会を計画する。
	生徒 指導	関係機関を活用し た防災・防犯体制 の整備	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の警察署や消防署の署員を学校に招き、不審者対応訓練や避難訓練について、指導助言を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種訓練の準備段階で「役割カード」を整備し、職員一人一人が適切な行動をとれるようにする。 職員の役割分担、役割カードの有効性など、各種訓練でチェックしてもらいたいポイントを警察署や消防署の方と事前に打ち合わせ、実際の災害に備える。
⑤ 専門性の 向上、市教 委との連 携	教育 支援	地域の教育支援機 能の向上	<ul style="list-style-type: none"> 市教育委員会を中心とした地域支援体制をバックアップする。 より多くの小中学校の教員が特別支援教育に関する研修を受けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 市教育委員会が市町村で対応できるケースと特別支援学校の支援を必要とするケースとの見極めができるよう密に情報交換し、必要に応じて発達相談や巡回相談を実施する。 昨年度まで瀬戸市・長久手市を対象に行っていた授業参加研修会の対象地域を拡大し、尾張旭市を加える。
⑥ 働き方改 革	情報 教育	業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化のために個々の職員が必要としている情報活用技術を把握し、その技術が学べるような研修の機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> グループウェアのアンケート機能を活用し、個々の職員が取り組みたいことや課題、困り感を洗い出し、具体的な解決方法を全職員で共有できるようにする。 教材の共有や印刷の削減など、業務の効率化のヒントを示す。
	自立 活動	業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の時間における指導の様子を撮影し、学校全体でシェアできるようにする。(名称：自立活動お助けバンク) 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容を検討する際のヒントになるように撮影した動画を編集する。 動画内で使用している教材などについて質問があれば担当者から情報共有ができるような環境を整える。
	教頭	多忙化解消	<ul style="list-style-type: none"> 在校時間等の結果を活用し、業務の見直しや適正化を図る。 多忙化解消プロジェクトチームを立ち上げ、業務のスリム化を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職が必要に応じて面談をし、業務内容や進め方について助言をする。 プロジェクトチームの構成員は、教頭、部主事、各部代表職員(1名)とし、学期に1回検討会を行う。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		① 授業及び評価の改善(教務、研修) ② 家庭との連携(進路指導、生徒指導)		